

2周年記念の日をお客様とともに祝う

オープン3年目を迎えた「明舞ひまわり」

活動が期待されるNPOとしてようやく明舞団地に定着した「ひまわり」は昨年10月31日、無事3年目を迎えました。この日は、ボランティアが丹精こめて手づくりした「五目豆」のおみやげつき特別献立でした。スタッフのうきうきした気持ちはお客様にも伝わり、みんなで喜び合いました。

8月の総会で改正された会則にもとづき新たに会員登録をお願いしたところ、正会員、準会員を含めて62名のお申し込みをいただきました。地元の明石や神戸、兵庫県内はもちろん、遠く九州は熊本から、関東は栃木、埼玉まで支援者は広がっています。こうした支援者の方たちと、日々のサービスに取り組むボランティア36名は、いずれも「ひまわり」にとって貴重な存在です。

多くの人たちの支えのもとに、「ひまわり」の3年目は明るい見通しを持って新年をスタートしています。

(写真はおみやげの「五目豆」)



2周年記念の特別献立

- 赤飯 ○おでん ○お刺身 (はまち)
- 青菜のごまあえ ○お吸い物
- 抹茶羹

イベント目白押し、明舞センターにぎわいの日々

昨秋から今年の春にかけては、明舞センターのイベントが目白押し。日常の食事サービスに加えてこれらの行事を実施していくのは、この地域の方たちとの新たなふれあいがあり、楽しいことや新しい発見もありましたが、ひまわりのボランティアたちにとってはかなりハードな日々でもあります。

「高齢者の食べ物と栄養パートII」展

明舞まちづくり広場で開催

昨年に引き続き11月16日から20日まで、明舞センター2階の明舞まちづくり広場で開いた「高齢者の食べ物と栄養パートII」展は、数々の展示と試食会でにぎわいました。

今年の展示は、予備軍も含めると国民6人に1人といわれている糖尿病について「食品交換表」による食品見本を展示し、解説しました。糖尿病予防食は、健康人にもヘルシーといわれています。「ひまわり」のお客様の中にも糖尿病の方はかなりおられる。ご家族に患者をかかえておられる方など、熱心に展示を見ながらの質問も多かった。野菜350グラムを毎日食べるための工夫として「温野菜」の食べ方、「自分流あわせ味噌だれの作り方」などが好評でした。

なによりも「ひまわり」をまだ知らない方へのPRに、ひと役買うことができたようです。



ひまわり新春メニュー

ちらし寿司、吹き寄せ煮、青菜のおひたし、
こんにゃくの田楽、はんぺんのすまし汁

明舞ふれあいクリスマスコンサート

アンクルンオーケストラの演奏に感動

小さな「ひまわり」にとってコンサートは大きな賭けだったが、今年のハイライトとして成果を収めた。12月18日の日曜日、200名の松ヶ丘ビル3階ホールを会場に予約したが、果たして集客が可能か危ぶまれた。だが、当日はそうした杞憂を吹っ飛ばすように会場はほぼ満席。大勢のお年寄りや子どもたちも足を運んでくれた。

この日のゲストは、南多聞台福音教会の吉川牧師の全面的な協力を得て出演していただいたアンクルンオーケストラ。インドネシアの竹は、節と節の間が長い。この長さの違いを利用して管楽器の音階をとっているのが、このアンクルンの演奏なのである。指が思うように使えない障害をもっている子どもたちは、手で触って振るだけなら、と練習した。この竹の輸入に8年の歳月を費やし、ヨハンシュトラウスの「美しき青きドナウ」の練習に2年かけ、この日の見事な演奏にこぎつけた。子どもたちのほとんどは、すぐ近くの園芸療法小規模作業所の「プレゼント・ガーデン」のメンバーである。10年の重みは、3年目を迎えた「ひまわり」にさまざまなことを教えてくれた。新たなお付き合いである。

美しい音色のフルート、バイオリン、ギターの演奏により、会場全員によるクリスマスソングの大合唱は、年の暮れを飾るにふさわしいものだった。



恒例の明舞チャリティーバザーに参加

12月4日の日曜日には、昨年に引き続き「明舞チャリティーバザー」が開かれた。ボランティアやひまわりのお客様の協力によって短期間のよびかけにもかかわらず、かなりの物品を集めることができた。前日の値札つけの日は掘り出し物を見つけ、ファッションショーが飛び出すなど、結構ワイワイガヤガヤと楽しく準備。当日は小雨だったが、会場を松ヶ丘ビルに変更し、大勢のお客様でにぎわった。

寒風の中、新春餅つき大会盛り上がる

昨年好評だった餅つき大会は今年も1月7日、ひまわりと明舞センター商店会の共催、地元各団体の協賛で行われた。

当日は朝7時半から準備。9時からスタートして60分をつき上げ、小餅は雑煮やあべかわ、ぜんざいにしてふるまわれました。ボランティアは雑煮づくりとお土産の小餅の袋詰めに大忙しだった。

今後の予定

●講演会

2月19日(日) 午後2:00~3:30 (明舞まちづくり広場)

「おいしい、楽しい、なつかしい食卓をみんなで伝えよう」

講師 大阪市立大 春木 敏先生

●野草料理講習会 3月下旬 (明舞ひまわり)

ボランティアの言葉……

ふれあい食事処+配食サービス

ひまわりで、健康的なおいしい食事を食べると、ほんとうに幸せな気持ちになります。私は配食ボランティアをしています。ありがとうございますと利用者の方から言われることが多いのに驚きました。もっと多くの方にお届けしたいと思うのですが、規模を拡大できませんか？ 人と設備の確保はみんなで検討するとして、それとは別に、ボランティアのやる気を引き出す方法を考えることが重要かと思います。

だれでも歳をとると、食べることが最大の関心事になるのではないのでしょうか？ 自分が歳をとったとき、ひまわりの配食サービスを利用できるように、みんなでシステムをつくり上げておけばいいなと思っています。多くの方が「ひまわり」のボランティアに参加してみようと思われるような目標ができればいいな、と思っています。

(伊丹ルリ子)